

マ・ー・ダ・ー・ミ・ス・テ・リ・ー・オ・ブ・ザ・デ・ッド

<物語の背景>

ゾンビパンデミック発生から約1年。

全人類の9割以上が死亡、あるいはゾンビ化してしまった世界。

ゾンビは生きた人間を襲い、血液感染により新たなゾンビを増やす。脳に近い部位から感染すれば、数分で発症しゾンビと化す。手足から感染した場合でも、初期症状の発熱が表れた後、1時間～数時間後にはゾンビと化す。

生き残った人々はゾンビの群れに怯え、屋内に引き籠もって生活していた。

日本の郊外、とあるショッピングモールには7人の生存者がいた。7人はモール内の店舗を住居とし、ゾンビを警戒し、助け合って暮らしていた。

恐れているのは、ゾンビだけではない。

全人類のゾンビ化を望む信奉者の存在。彼らは生存者のコミュニティを見つけ、門やバリケードを破壊し、ゾンビを誘い込んでコミュニティを崩壊に導く。

また、この3ヶ月間に、モールから8人もの方不明者が出ている。姿を消したのは、年齢の高い者や男性が多い。どこへ消えてしまったのだろうか？

モール内に夜な夜な響き渡る、謎の歌声も気がかりだ。不気味な呻き声が、メロディを奏でる。いったいどこから聞こえてくるのか……。

モールでの生活は、いつまで続けられるか分からない。ゾンビを恐れずに暮らせる「安全圏」の存在が噂されているが、真偽は定かではない。

生存の希望は、儂く消え去ろうとしていた。

ある日の夕方。1台のバイクがモール目がけて走ってきた。ゾンビに追われ、バイクは転倒。乗っていた2人は、モール内に助けを求めて叫んだ。リーダーのアキラは、受け入れに反対した。皆を危険に晒すわけにはいかないと。だが、他の住人たちは反発。アキラはやむを得ず、彼が管理している鍵を使い、出入口を開放した。2人の中に入れ、すぐに扉を封鎖。

現れた2人は白衣を纏っていた。和田と八栄子。製薬会社の研究員だという。研究所がゾンビに襲われ、逃げてきたらしい。2人は負傷し、特に和田は意識が朦朧としていた。

意識を失う寸前、和田が言った。

「ウイルスの抗体保持者が見つかり、血清を作ることができた。ワクチンも作れるかもしれない、そう思った……。だが彼女は死んだ！ だれかが研究所にゾンビを招き入れたせい……。しかし、まだ希望はある。連れていかなければ、希望を、『安全圏』に――」

そこまで言って、和田は気を失った。

聡が八栄子から、研究所の位置を聞き出した。そう遠くはない。2人が乗っていたバイクを使えば、調査に向かえるだろう。

和田の詳しい話は、明日改めて聞くことになり、一同は解散した。

その夜もいつものように、謎の歌声がモール内に響き渡っていた。

翌朝、衝撃的な事件が起きる。フードコートで和田の死体が発見されたのだ。首を締めつけられた痕がある。明らかに、人間に殺されていた。

さらなる恐怖が一同を襲う。モール内にゾンビが侵入してきたのだ。出入口が開放されている。なぜ!? だれかが扉を開いたのか……？

一同はゾンビを撃退し、出入口の扉を再び閉じることに成功。だが、負傷者が出た。特にアキラは腰を強く打ちつけたようだ。感染したと申し出る者はいなかったが……。

和田殺害の犯人は、モール内の8人中にいるのだろうか？ 一刻も早く真犯人を突き止めなければ。それ以外にも解決すべき問題は多い。

生存への希望を取り戻せるか否かは、君たち全員の判断にかかっている。

<登場人物>

- ・アキラ (男性/25歳)
- ・聡 (男性/21歳)
- ・一樹 (男性/23歳)

- ・前園 (男性/26歳)
- ・凧沙 (女性/22歳)
- ・タマミ (女性/20歳)

- ・はる (女性/16歳)
- ・八栄子 (女性/24歳)

